令和7年第2回大町町議会（定例会）会議録（第2号）						
招集年月日	令和7年6月9日					
招集の場所	大町町議事堂					
開散会日時 及び宣言	開議	令和7年6月11日	午前9時30分	議長	諸石重信	
	延会	令和7年6月11日	午前11時03分	議長	諸石重信	
応（不応）招議員及び出席並びに欠席議員 出席 8名 欠席 0名 凡例 ○ 出席を示す △ 欠席を示す × 不応招を示す ▲ 公務出張を示す	議席番号	氏名	出席等の別	議席番号	氏名	出席等の別
	1	諸石重信	○	5	山下淳也	○
	2	三根和之	○	6	早田康成	○
	3	北沢聡	○	7	三谷英史	○
	4	江口正勝	○	8	藤瀬都子	○
会議録署名議員	3番	北沢聡	4番	江口正勝		
職務のため議場に出席した者の職氏名	事務局長	坂井清英	書記	高田匡樹		
地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名	町長	水川一哉	副町長	川原恵		
	会計管理者	宮崎貴浩	教育長	尾崎達也		
	総務課長	井原正博	総務課参事	亀川修		
	企画政策課長	藤瀬善徳	町民課長	吉村秀彦		
	町民課参事	副島徳二郎	子育て・健康課長	灰塚重則		
	福祉課長	釘本あゆみ	子ども保育課長	前山正生		
	農林建設課長	古賀九州男	教育委員会事務局長	井手勝也		
議事日程	別紙のとおり					
会議に付した事件	別紙のとおり					
会議の経過	別紙のとおり					

議 事 日 程 表

▽令和7年6月11日

日程第1 一般質問

1. ワインプロジェクトとは何か (三谷英史議員)
2. 国スポの記念イベントについて (北沢 聡議員)
3. 農村地域の環境整備について (三根和之議員)

午前9時30分 開議

○議長（諸石重信君）

ただいまの出席議員は8名でございます。定足数に達しておりますので、令和7年第2回大町町議会定例会2日目は成立いたしました。

これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりでございます。議事進行につきましては、御協力のほどをよろしくお願いいたします。

日程第1 一般質問

○議長（諸石重信君）

日程第1. これより一般質問を行います。

一般質問は、通告書により順次質問を許可いたします。7番三谷議員。

○7番（三谷英史君）

7番三谷でございます。今回の質問は、今、町が構想をしておりますワインプロジェクト、そもそもこのワインプロジェクトとは何かについて、その具体的な内容についてお伺いをし、そして、このワインプロジェクト事業と個人事業者に対する補助金の関係について質問をいたします。

現在、個人の方が大谷口地区でブドウ栽培に取り組まれております。将来、このブドウを醸造してワインを製造する計画があるとのことでございます。このためには、これからブドウの醸造、さらにワインの瓶詰め、販売云々等の事業に対して、機械、装置、そして工場建設等が必要となり、これには数千万円、あるいは億単位の投資額が必要になるというふうに考えられます。これを法人ではなく個人で取り組まれているとのことでございます。

そこで、ワイン製造、販売までの全行程についての全体計画の中で、町が構想しておるワインプロジェクトがどのような形でこれに関わっていくのか、今現在これが示されていないため、3月当初予算で計上された補助金の必要性、また、その額の妥当性を判断することができませんでした。そして、ワイン製造と町がどのような関わりがあるのか、理解ができません。

ブドウ栽培のために地域おこし協力隊を募集する、これが3月の当初予算に計上されました。この事業の立ち上げからこれまでの町の関わり方、あるいは説明から、私にはこの事業は町が主体的に行っている事業、町が主導している事業にしか見えません。もしそうであるならば、人口が6,000人を割り、財政規模も弱小の極めて零細自治体が、しかも、何ら知識、経験もない中で、果たして経営としてやっていけるのかどうかということに関しまして、素朴な疑問が湧きます。背負うリスクが大き過ぎると懸念をしております。

そこで、以下、次のとおり質問をいたします。

1点目といたしまして、ワインプロジェクトの具体的な内容についてお伺いをいたします。

2点目といたしまして、この事業と個人事業者に対する補助金の関係について。ワイン製造を目的としてブドウ栽培に取り組まれている個人事業者に対して、町は何を目的として補助金を支出しているのか。ブドウ栽培からワイン製造、販売までの全行程の中で、町が構想しているワインプロジェクトがどのような形でこれに関わっているのか。

3点目といたしまして、今後も補助を継続していくのか、そして、いつの時点まで補助が続くのか。

以上について質問をいたします。答弁をお願いいたします。

○議長（諸石重信君）

水川町長。

○町長（水川一哉君）

ワインプロジェクトについての御質問ということで、今聞いていて、非常に臆測とか推測が入り交じった発言だと私は思います。

この事業についても、私が開会冒頭の挨拶で説明を申し上げた、ひじり学園テニスコートの人工芝生化事業と同様に、一部の議員により開催されたという先日の報告会の参加者の方から、議員からは反対という意見は聞いたが、事業の内容がよく分からないということで、町民の間で混乱を招くという御指摘があった事業の一つです。

このような機会をいただきましたので、行政事務を管理し、執行する責任のある立場から、私からも補完的な説明を含めて答弁させていただきたいと思います。

まず最初に、地方自治法第232条の2において「普通地方公共団体は、その公益上必要がある場合においては、補助をすることができる。」と定められています。ここに個人とか団体とかの制限はありませんし、県や全国の市町村で行われていることです。

また、三谷議員が言われる補助金は、議会の承認を得て公正な手続を経て行われておりますし、三谷議員もその場に加わっておられました。私的な感情ではなく、公的な議論を経て決定された手続だということを最初に申し上げておきたいと思います。その上でお答えをいたします。

これまでも私の考えや思いをお示しし、職員も議員からの質問に繰り返しお答えをしてきました。我々の立場、考えは一貫しており、順次、公正なプロセスを踏んできたにもかかわらず、今回の質問がそもそも論に戻っているように思いますので、前後の状況を含めて、改めて御説明を申し上げます。

御存じとは思いますが、大町町の最上位計画である第4次総合計画の中で、農業の振興・主要施策の一つとして、特産品の開発、地域性に即した新作目や新品種の導入、産地化の促進が掲げられていました。このこともあり、令和3年3月定例会開会冒頭に、キュウリハウスの園芸団地構想に続き、産業振興の一環として、豊かな南面傾斜の中山間地を活用した新たな産地づくり・特産品づくりプロジェクトの実現のため、サウンディング型市場調査により民間に意見や提案を求め、有用なアイデアを募り、提案者自らがその事業主体となって熱意を持ってプロジェクトの実現を目指していく、そのような事業をできるだけ早い時期に公募したいと申し上げておりました。三谷議員もその場におられましたので、御存じのはずです。

その後、令和3年3月25日の臨時議会において、第4次総合計画に続く新たな第5次総合計画を満場一致で御承認いただき、そこには明確に特産品の開発と6次産業化の支援を掲げております。御確認をお願いします。

そして、令和3年8月豪雨災害の災害対応が大体落ち着いた後、令和5年6月定例議会において所信の一端を述べさせていただき、第5次総合計画や公約の実現に向けた考えを表明し、大町の貴重な資源を磨き上げながら、新たな産品づくりやブランドづくりに挑戦することを目標とし、そのために今やらなければならないこと、今だからできることを実行し、短

期・中期・長期的に実現できるよう頑張っていくと申し上げました。そして、昨年の令和6年3月議会では具体的に名称を掲げ、大町特産品の開発に向けたワインプロジェクトをスピード感を持って推進する旨申し上げたところです。

ここまではワインプロジェクトについての私の考え方と、議会の場で対外的に、そして町民の皆様に対しても公表してきた一連の流れです。

次に、議会の委員会等でも、議員からの質問に対し職員が説明をしてきたワインプロジェクトについてですが、私の口から簡単に申し上げたいと思います。

要は、大町で栽培されたブドウを使った佐賀県初のワインを大町の特産品ブランドとすることを目的としております。このプロジェクトは町にとってもブランドづくりだけでなく、農業振興、中山間農地の活用、新規就農者育成支援や、ふるさと納税の返礼品、関係人口の拡大、さらには雇用創出、町のPRなど、幅広い波及効果が期待される重要な施策で、公益上必要な事業と位置づけております。

続いて、これまでの事務的な手順について説明します。

先ほども申し上げました、町の最上位計画である大町町第5次総合計画の中で、具体的な農業振興主要施策として、中山間地における収益向上のための新規導入作物の産地化や6次産業化を支援するとうたっております。これを実現するために、さきに申し上げたサウンディング型市場調査を中山間地域の利活用及び農産物開発を目的に令和3年6月に実施し、民間から地域資源を活用した提案を募集しました。提案された2案の中から、施策の目的と合致する、佐賀県で栽培したブドウを使って佐賀ワインを作るという案を採択し、これを大町ブランド、特産品にできないかということで提案者と対話型の協議を進めてきました。その後、令和3年8月には、この採択事業をワインプロジェクトとして、佐賀県発のワインの実現を支援し、大町ブランドづくりに向けて佐賀県の協力と連携を図りながら取り組んできたところです。

また、事業を進めるための経費、補助金について時系列的に説明をいたします。

まず、2年前の令和5年度です。県のさが園芸生産888億円推進事業に基づく基盤整備に対する補助金の認定を受け、県の負担金10分の5、777万2千円、町の負担金10分の1、155万5千円を活用し、提案者が10分の4の負担になりますけれども、これを財源として、提案者自ら土地を確保し、農地の基盤整備を進め、果樹棚や降雨防止施設を整備されました。このことは議会に説明をし、議決を得ています。

そして昨年、令和6年度には、県補助の対象とならなかったワイヤーメッシュ柵や防風対策等に対し、要綱に基づき、県の補助同様、事業費466万円の5分の3の補助、279万6千円を交付しています。提案者負担は5分の2となります。これも議会の議決を得ております。それとあわせて、佐賀県初のワインを大町特産品ブランドとするためのワインプロジェクトを確実に推進していくため、3か年を期間としてワインプロジェクト促進委託事業、年間480万円を計上し、令和6年度予算として既に執行しております。ただし、これは議員が言われる補助金ではなく委託料で、これも議会の議決を得ております。

令和7年度、今年度はこの3か年委託事業の2年目となります。そして、同じく令和7年度事業として、大町ブランドづくりをさらに進めていくための人材確保等を目的として、国の全額負担となる地域おこし協力隊制度を3か年程度活用することとしてしており、今回は一部の議員の反対がありましたが、これも賛成多数で可決いただき、既に手続を進めております。

以上、申し上げた事業経費約3,611万円のうち、法令等に基づき町が交付する補助金は435万1千円です。町が進めるブランドづくり業務推進のための委託料960万円と合わせ1,395万1千円の財源は、ふるさと納税基金、ブランドづくりを目指し、今だからできることを実行するため、支出することとしております。

ここで一旦ワインプロジェクトについて考え方を整理しますと、町は提案者のアイデアによる佐賀県発のワインづくりを支援するため、基盤整備等に補助金を出し、そのワインをもって大町ブランドをつくり上げるために業務を委託することで、さきに申し上げた波及効果を実現していくことを目的としております。その目的に向かって、一つ一つ必要な予算を議会にお願いし、議決を経て、既に動いている事業だということです。

その大町ブランドづくりを進めていく上での業務推進のための委託について説明をいたします。

第5次総合計画に基づき、町が主体となってブランド形成や品質管理体制の構築など、プロジェクト全体を円滑に進めていくための体制づくりを目的としたものです。ワインづくりの知識を持つ提案者と準委託契約により委託をしております。これは形のある成果物の提出を求めるものではなく、大町ブランドとして安定した質、量を確保するための業務遂行自体が目的です。民法第656条「法律行為でない事務の委託」に準ずるものでございます。

委任の必要性として、町主導でブランドを形成するためには、労力や計画的かつ継続的な

技術、品質管理が必要なこと、自発的な民間任せでは安定供給や品質維持管理に課題が生じることなどを勘案し、町も加わっていく必要な業務委託だと考えております。

なお、業務は仕様書に定められたとおりに実施されております。

すなわち、このワインプロジェクトで議員に整理していただきたいのは、町が主体となるブランド形成、体制構築等のための委託業務の部分と提案者自体が主体となる佐賀県産ワインづくりに係る基盤整備等に対する財政支援の補助部分は目的が異なることから区別して考えていただきたいということであります。何でもかんでも町が補助しているのではなく、県も町も法令に基づき、補助すべき事業に補助金を交付しております。この補助部分が三谷議員が個人に対して何を目的に補助金を出しているのかと言われる御不満な点かと思いますが、先ほど説明をしてきたとおりです。御指摘は当たらないと思っております。

最後に、今後の補助や委託の継続についてお答えをいたします。

基盤整備等に関する補助金につきましては、令和6年度で既に終了しております。今後、事業の推進次第で企業立地奨励制度の対象となる可能性もあり、法令等に基づく支援や新規就農者に対する育成、支援等は当然必要になると考えております。

また、重ねて繰り返しますが、ワインプロジェクト推進業務の委託については、令和6年度から令和8年度までの3か年を想定しております。国の負担による地域おこし協力隊につきましては、令和7年度から3か年程度活用を予定しております。町としましては、町の特産品、ブランドづくりを目指したこのプロジェクトをしっかりと進めながら、町益のため、町民の期待に応えていきたいと考えております。

三谷議員におかれましては御不満もおありでしょうが、既にスタートし、期待をされる町民も多い、ゼロから形をつくり、未来に残す夢のワインプロジェクトと思っております。提案者も頑張っておられますし、職員も意欲を持って取り組んでおります。

三谷議員をはじめ御不安があるのであれば、既に進行中のプロジェクトですので、町のため、期待される町民のために成功に向けてのお気づきの点、前向きな御意見等をいただければ幸いです。

○議長（諸石重信君）

三谷議員。

○7番（三谷英史君）

分かりました。このワインプロジェクト事業、特産品としてのワインのブランド確立、こ

これは町が行っている事業だということでございますね。そして、この計画が6年から8年までの間に補助金を出しながらつくり上げていくということですが、ブランドを確立していくためには、宣伝、販路拡大云々、かなりの長時間、そしてまた、費用もかかるというふうに考えます。その場合は6年から8年にかかわらず、以後もずっとそういうことを行っていくということに理解していいわけですかね。いわゆる町の特産品として、ブランドとして確立するまで、もちろん町が主体的に取り組んでいる事業ですから、そこまで町は今後ずっと取り組んでいくというふうに理解してよろしいんですかね、お尋ねします。

○議長（諸石重信君）

水川町長。

○町長（水川一哉君）

今言ったのは、経費として3か年、委託の業務をやりますよということは、まずもって、委託料を議会にお示ししたときに申し上げていたことですので、それを繰り返しております。そして、町おこし協力隊につきましては、これは3か年事業となっておりますので、3か年は継続させていただきたいということを申し上げております。この事業が短期に成功する、中期に成功するということは申し上げておりません。

先ほども申し上げましたけれども、町のブランドづくり、特産品づくりを目指してゼロから物をつくり出し未来に残していく、それが先ほど申し上げた波及効果となり、公益につながるというふうに思っております。

三谷議員がどのくらいでこれができるかと想像をされているか分かりませんが、そう簡単なものではないと我々も思っておりますし、期待される町民の皆さんもそう思っているんじゃないかと思います。それだけに期待が高い取組だというふうに思います。だからこそ、情熱、意欲を持って取り組む、そして、議会で承認されたことですので、一緒になってそちらを目指していただければというふうに思っております。どこからか物を買って、持ってきて売ればいいというものでもありませんので。

ちなみに、佐賀県の特産で今売出し中の佐賀県産のイチゴ「いちごさん」は7年かかっております。それから、15年連続食味特Aを獲得した「さがびより」は11年かかっています。そしてまた、今、最高級ミカンと言える「にじゅうまる」、これは開発して商品になるのに21年の歳月がかかっておりまして、花粉が少ないと言われる「サガンスギ」ですかね、これは56年かかっているということです。これを途中でやめていたらどうなったかということも

ありますので、それは皆さんと一緒に予算を提案するときにそれぞれの御意見をいただければいいのかなというふうに思います。

○議長（諸石重信君）

三谷議員。

○7番（三谷英史君）

再度質問をさせていただきます。

町が主体的に取り組むこのワインプロジェクト事業として、大町の特産品としてブランドとして定着するまで町は責任を持ってこの事業に取り組むということで理解していいんですかね。町長、もう一度重ねてお伺いいたします。

○議長（諸石重信君）

水川町長。

○町長（水川一哉君）

これを商品化ですかね、どの時点で成功と言うのかということでしょうけれども、私たちは、議員もそうでしょうけど、4年間の任期というものがあります。私が成功するまでとかいうことはなかなか言えないのかなと。県も代々知事は替わっていると思います。どこでそれを断念されるのか、されないのかというのは、これは誰も明確にはお答えできないというふうに思いますけれども、我々の考えは一貫しておりますし、議会の決定は絶対だというふうに思っております。

そして、議会の議決を経て定められた総合計画の具体的な施策の執行は、町、そして執行機関の責務だと思って取り組んでおります。いつまでやるとか、そういうものは考えておりませんので、先ほども申し上げましたけれども、議員の皆さんに提案するときにそれぞれの御意見をお伺いしながら、それが否決されれば断念せざるを得ないのかな、それとも、違う形でまたさらにそれを挑戦、あるいは成功に向けて動いていくのかというのは、今ここで申し上げることはできないということで答弁とさせていただきます。

○議長（諸石重信君）

三谷議員。

○7番（三谷英史君）

分かりました。それで、我々議員、議会といたしましては、今後、執行部が予算計上された時点でもって、それが公益にかなう支出かどうかというのを適宜判断していくということ

になるわけですね。そして、場合によっては、途中で計画をやめるということもあり得ると。

○議長（諸石重信君）

水川町長。

○町長（水川一哉君）

私は計画をやめることがあり得ると言いましたか。言っとらんですよね。何ですかね……（「あるのかと……」と呼ぶ者あり）だから、それは今からですよ。私は4年間の任期がありますので、4年は前向きにやっていきます。ただ、その後は分からないでしょう。だから、今のような答弁をしております。

何か議員の考えがスタート以前に戻っておられるようですので、そもそもこの事業について根本的な考えをお聞きしたいと思います。

大町町議会基本条例第9条「町長等は、議長又は委員長の許可を得て、議員の質問に対して反問することができる。」となっておりますので、この議論の意味を確認するため、反問の許可をお願いしたいと思います。議長よろしいでしょうか。

○議長（諸石重信君）

水川町長。

○町長（水川一哉君）

先ほども申し上げましたとおり、個人的な意見もあると思います。しかし、私的な感情ではなく、公的な議論を経て決定されたことに基づいて取り組んでいる事業です。総合計画に定めた大町のブランド、特産品づくりを目的としております。私が個人的に言っていることじゃないんですよね。それは議会も認められたことですよ。その目標に向かって必要な経費の議決をいただき、一步一步プロジェクトを前に進めています。

議員の質問の意味を確認したいと思います。そもそも三谷議員は、町のブランド、特産品づくりに対し賛成か反対か、お答えください。ひょっとして対案があるのであれば、お聞かせいただきたいと思います。

○議長（諸石重信君）

三谷議員。

○7番（三谷英史君）

町長から私の考えを御質問いただきましたので、私の考えを。

先ほどの質問の中で私も言いましたとおり、我々は何ら知識も経験もないわけですね。

今現在、人口6,000人を割って、だんだん人口が少なくなっていく。そして、財政そのものも零細になっていく。このような中で、こういうふうな、そりゃ、夢を追うということはいとは思うんですけども、余りにもリスクが私は大き過ぎると思います。ブランドを確立するということは並大抵のことじゃないと思います。そして、全国津々浦々、地ビールにしる、地ワインにしる、いろんなどころでやられております。そして、成功というか、成功事例はごくごく僅かですよ。取っている情報が違うから、この辺は分かれるかも分かりませんが。

いずれにしる、公の自治体として、この財政規模から考えて、私はこういうふうな事業はやるべきではないという考えでもって反対です。

以上です。

これで質問を終わります。

○議長（諸石重信君）

答弁はよろしいですか。

○7番（三谷英史君）

別に。今後また予算が計上されたら、その都度、公益にかなう支出かどうか、質疑をさせていただきますと思います。

終わります。ありがとうございました。

○議長（諸石重信君）

続きまして、3番北沢議員。

○3番（北沢 聡君）

3番北沢聡です。議長より登壇の御許可をいただきましたので、今から質問をさせていただきます。

国スポの記念イベントについて質問をいたします。

昨年、大町町内において開催された国民スポーツ大会、銃剣道大会は関係各位の御協力のおかげで無事に終えることができました。全国大会を大町町で開催したという歴史を長く町民の記憶にとどめていただきたいという願いと、町外に大町町をアピールする一環として、国民スポーツ大会のデモンストラーションスポーツとして開催された町内ウォーキングを毎年記念イベントとして開催してはどうかと思います。

開催時期は、銃剣道大会が開催された時期に合わせて秋のスポーツイベントとして開催し、

町外へ大町をPRするイベントとしての目的も併せて行ってみたいかどうかと提案をいたします。

○議長（諸石重信君）

教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（井手勝也君）

北沢議員の御質問にお答えいたします。

昨年10月開催のSAGA2024国民スポーツ大会、銃剣道競技会ではたくさんの方に来町いただきました。また、本大会前の4月にはデモンストレーションスポーツとしてウォーキングを行い、あいにくの雨にもかかわらず、町内外から約200名の方に参加をいただきました。大町温泉様の費用対効果もあり、武雄河川事務所等の協力を得て行ったウォーキングには「石炭輸送路たんけんコース」と銘打ち、温泉を発着地に堤防を歩く特設の約12キロを設定し、干満の差や湯に飛来する水鳥など、ふだん見ない六角川の様子に、これまでとは違った大町町を南から望む景色に大町町のよさを再確認された方もたくさんおられたと思います。

議員御指摘のとおり、昨年の国民スポーツ大会を一過性のものとして捉えるのではなく、町民の新しいスポーツ観の醸成の機会として捉えています。つまり、するスポーツ、見るスポーツ、支えるスポーツという視点で、町民の方の生涯スポーツにつなげていくように考えております。

佐賀県でも「歩こう。佐賀県。」に取り組まれており、20市町のウォーキングコースが紹介されております。県南部7市町エリアの大町町は、約8.7キロメートルのJR大町駅をスタート、ゴールとする散策コースが紹介されています。

そこで、デモンストレーションスポーツとして取り組んだウォーキングを大町町の特色あるスポーツとして位置づけ、毎年開催していくことを考えておりました。来年度は町制施行90周年でもありますので、90周年記念として、第1回目のウォーキング大会を開催できないか検討させていただきたいと考えます。

これからウォーキングが身近なスポーツとして町民の方に認識され、取り組まれることで、首都圏事務所等に配布しました「おおまちぶらりふるさとガイド」にも掲載されております19の観光スポットや、施設情報等以外のこれまで気づかなかった町の魅力の発見や、新たな交流が生まれたりすることを期待しています。

歩くことは高血圧の改善、心肺機能の強化、骨の強化、肥満の解消、肝機能、腰痛、糖尿

の改善、リラックス効果など様々な病気の予防や改善に結びつきます。その結果、健康寿命の延伸にもつながります。六角川をはじめ時期やコース等は未定ですが、今後、年1回は幅広い年齢の方が気楽に参加できるウォーキングイベントを行っていくよう検討していきたいと思っております。

また、様々な機能がついた県公式ウォーキングアプリ「SAGATOCO」にも配信されております。議員の皆様も併せて活用いただければ幸いです。

○議長（諸石重信君）

北沢議員。

○3番（北沢 聡君）

ありがとうございます。大変ありがたいお返事をいただきました。

このウォーキングは、開催ができれば、先ほどお話しいただきましたとおり、町民の間でスポーツに対する意識向上、健康増進、大変よいことづくめであると思っておりますので、ぜひこれは検討して、来年、町制施行90周年の記念事業として行っていただけることを期待いたしまして、これにて質問を終わります。

○議長（諸石重信君）

ここで暫時休憩いたします。

午前10時15分 休憩

午前10時25分 再開

○議長（諸石重信君）

議会を再開いたします。

休憩前に引き続き一般質問を続行いたします。2番三根議員。

○2番（三根和之君）

皆さんおはようございます。2番三根和之でございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきますと思います。

今議会での町政課題として、農村地域の環境整備についての1問を質問いたします。

質問の内容としては3項目あります。

1項目めは、令和6年9月議会で質問しております、ラジコンの草払い機の早期導入をお尋ねいたします。

各農村地域では、今年も幹線水路やため池の草刈りが4月下旬から5月の連休にかけて実

施をされております。作業終了後には、作業員の高齢化や人員不足のことがよく言われております。また、各地域での要望として、遠隔操作できるラジコン草払い機の導入を希望しますので、よろしくお願ひしますという声が私の耳に入っておるところであります。

前回の回答として、この導入について運営方法を含め調査、研究するため、しばらく時間をいただきたいと答弁されております。前回の議会から今日までの間に取り組んだ項目の経過報告と導入時期を明確に回答いただきたいと思ひます。

次に、2項目めです。

昨日の新聞でも報道されておりましたが、福岡管区気象台では、6月8日に佐賀県を含む九州北部が梅雨入りしたと見られると発表をされております。その中で、昨日は線状降水帯も発生して大雨災害の危険度が急激に高まるおそれがあり、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に警戒するよう呼びかけられておりました。

私も昨日、下瀉排水機場をはじめ八ツ江樋管、境川、現場樋管を見てまいり、特に現場樋管では移動式ポンプが2台設置されて、稼働をしておりました。おかげをもちまして各地域でも被害もなく、職員等をはじめ樋管の操作員の皆さんにこの場を借りてお礼と感謝を申し上げたいと思ひます。また今後ともよろしくお願ひを申し上げます。

それでは本題に入りますが、国道34号南地区の土地改良事業による圃場整備地区内に横の水路があります。この横の水路の事業に取り組んでもらいたいと思ひ、お尋ねをいたします。

事業の内容として、水路の拡幅をはじめ、のり面保護、それから、しゅんせつ事業を実施して排水路内での水量確保や各排水機場までに水の流れをスムーズにすることができると私は思っております。参考といたしまして、この事業を県の基盤整備促進事業補助金を活用して実施できるのではないかとお願ひしておるところであります。

そこで、横の水路というのは3か所あります。1つ目は、中島から下瀉に向かう横水路として53号支線排水路の河川幅を広げてもらいたい。2つ目は、杉谷川のパナソニックの東から県道久間～大町線までの横の水路、これは7号幹線水路といいますが、この水路ののり面保護としゅんせつ。3つ目は、畑ケ田の共乾の下からある水路で、横として上大町の高良川までの鉦害1号幹線と1号幹線水路ののり面保護としゅんせつをお願ひしたいと思ひます。

3項目めでございますが、県管理の上大町下流にあります八ツ江樋管のポンプの増設事業と高良川の右岸にあるブロック積みの擁壁の一部崩壊の破損部分の改修をお願ひ申し上げたいと思ひます。

この質問については、今まで多くの議員の方が議会で質問されておりますが、なかなか進展をしておりません。そこで、現段階までの進捗状況をお聞かせください。

この3項目にわたりますて、回答をよろしくお願い申し上げます。

以上です。

○議長（諸石重信君）

農林建設課長。

○農林建設課長（古賀九州男君）

それでは、三根議員の質問にお答えいたします。

まず、ラジコン草刈り機の早期導入についての御質問でございます。

ラジコン草刈り機については、近隣町で導入がなされたという実績もございまして、実際の草刈り作業の視察確認や、実際作業をされている方からお話を聞くことができました。除草と同時に草を細かく粉砕することができるため、分解が早く、除草後の草の撤去や焼却が不要となることから、省力化や作業の安全確保、さらには堤体管理、環境面の観点から見ても大きな効果が見込まれると思います。現在、前向きな導入の検討を行っているところで

す。

今後、本町の、特にため池に適した機種を選定や作業委託の受入れ体制等の課題を整理しながら、スピード感を持って、来年度の春をめどに準備をしていきたいと考えているところでございます。

2つ目、圃場整備地区における横排水路の整備についてでございます。

まず、1点目の中島から下潟にかけての53号支線排水路拡幅事業についてです。

本水路は平成21年に整備された土地改良区が管理する排水路であります。現場樋管から下潟排水機場へ向かう導水路を兼ねていますので、大雨時の水量が多いのは承知をしていますが、抜本的には幹線水路を含め、大雨時の水路の水位を低下させることが最も重要と考えています。

昨年度、下潟排水機場の増設工事が完了いたしました。また、現在、現場樋管へ毎秒0.3トンの排水ポンプの設置に向けた設計を行っており、令和8年度の完成を見込んでおります。また、町が管理する移動式排水ポンプの運用と併せ、水路の水位を低下させる対策に取り組んでおりますので、全ての対策がそろった後に状況を確認しながら、必要に応じて土地改良区や地元と協議したいというふうに考えております。

2点目、杉谷川から県道久間～大町線までの7号幹線水路についてです。

県営圃場整備事業により整備された農業水路となりますが、令和元年8月の豪雨の際は一部崩落し、災害復旧事業で復旧した等の経緯がございます。過去にも事業活用による大規模整備の話が協議に上がったこともありますが、受益者負担など課題も多いため、現在は維持補修について多面的機能支払交付金を活用して、地元の施工、発注による維持補修等、対応をしていただいております。

御質問にある佐賀県基盤整備事業は補助率が55%の事業です。これはのり面整備、しゅんせつにも対応できますが、県の上乗せ補助がなく、補助残の45%が町と受益者の負担となります。しゅんせつのみであれば、土地改良施設維持管理適正化事業が補助率60%、また、起債事業である緊急しゅんせつ推進事業は地方債充当率100%で交付税措置率70%の事業となっております。いずれにしましても、各事業において受益者負担が発生をするということになっております。

以上のことから、必要に応じて土地改良区や受益地域から相談があれば協議させていただきたいと思っております。

3つ目の畑ヶ田から上大町、高良川までの鉱害1号幹線、1号幹線のしゅんせつとのり面保護についてですが、先ほどの質問と同様の回答になりますが、現時点で事業実施の予定はなく、今後、御相談があれば協議させていただきたいというふうに考えております。

最後に、八ツ江樋管と高良川の排水路についてでございます。

高良川における治水対策について、気候変動による大雨により、高良川からの越水の影響で、大町町だけでなく江北町にまで被害が及んでいることから、河川管理者である佐賀県に対し、ポンプ排水能力の増強及びしゅんせつ、遊水池設置等に直ちに着手していただくよう要望書を提出しているところでございます。

今年、県において八ツ江樋管に監視カメラが設置されました。この監視カメラで今ある排水ポンプの稼働タイミングが遅れることのないようにということで大きく活用しているところです。町では、上流ため池の低水管理の依頼も行っております。また、河道のしゅんせつについても協議をしているところです。排水ポンプの増強については県で協議中ではありますが、引き続き要請をしていきながら、流域の総合的な治水対策に取り組んでまいりたいと考えております。

排水路整備については、水路内側ののり面の一部破損のことをおっしゃっておられるので

はないかと思っております。この件につきましては県に対しても共有をしております、ただ、今、雑草の繁茂がひどくて、ちょっと現地の確認ができておりませんので、除草後に現地確認及び対応していただくよう話を伝え、要請をしているというところでございます。

○議長（諸石重信君）

三根議員。

○2番（三根和之君）

お答えありがとうございました。

まず1番目に、ラジコン草払い機、来年度に向けてよろしくお願ひしたいと思っております。

このラジコン草払い機の運用方法で、先ほど江北町の話もありましたが、ある業者に委託をされて、使用料を払って、そして草を払っていただくと。ただ、ため池も含めて勾配の高さがそれぞれ違う部分があるんですよね。そうしたときに、ある方とお話ししてみたところ、横に運転するんじゃなくて、勾配が強くても縦に草払い機を稼働させていって草を切るというふうなやり方もあるんじゃないかなというアドバイスを受けたり、それから、私が思うんですが、私もある方から御相談があつて、空き家の空き地を草払いしてくださいということもちょっと要望があつたんですよね。空き地であれば平地になっていますから、そういう活用も今回その運用方法の中に入れて、大町全部のエリアを包含しながら運用するという方法も取っていただければということをお思います。

こちら辺は今後の運用方法の問題に出てきますが、担当課としてはどういうふうな考え方で対応されるかをお尋ねいたします。

○議長（諸石重信君）

農林建設課長。

○農林建設課長（古賀九州男君）

では、お答えをいたします。

機種を選定というところにつきましては、もちろんまだ詳細は詰めておりませんが、恐らく一番考慮せねばいけないのは、ため池の勾配についてというのが——平地はある程度、よっぽど不陸がなければできると思うんですけれども、現在、大町町のため池が18か所ございます。台帳上ですけれども、最も傾斜が大きいため池で約37度の勾配がついております。数社の機種等の資料等を取り寄せてやっておりますけれども、45度まで対応できるというよう

な機種も数個あって、そういったところも含めて、傾斜と、あとは馬力ということになると
思いますが、ちょっとこの後、詳細は詰めていきたいと思っております。

ちなみに、近隣町での導入は45度まで対応できるものを使っておられました。それを視察
させていただきましたので、今のイメージとしてはそういうイメージで考えております。

あとは、縦にというお話もありましたけれども、これは作業を委託されて受託されている
方からすると、縦だとやっぱりバランス的に前に荷重がかかって転がっていくということで、
基本的には横ということでございました。

あとは、ため池以外の箇所への活用ということについては、これも今後の検討となります
が、費用負担とかのところも含めて、空き地だと、どなたから費用負担を受けられるとか、
いろいろ課題もありますので、その辺は今後検討、協議をさせていただきたいと思えます。

○議長（諸石重信君）

三根議員。

○2番（三根和之君）

それぞれお答えありがとうございます。

もう一点、江北町の例で、どれぐらいの使用料でされていたのか、それから、こういうメ
ンテナンスが結構大変だと思うんですよね。それと、私も機械を見せていただきましたが、
いろいろ刈り幅もあるんですよね、1メートルから1メートル30センチ、40センチてろ。そ
いけんが、そこも含めて稼働時間が少ないような機種の選定もお願いしたいんですが、先ほ
ど言うた運用の方法としては、担当課長としてはどういう人たちに委託をしていくのか、そ
れから、どれぐらいの金額でという目安というのは考えておられますか、ちょっとお聞きし
たいんですが。

○議長（諸石重信君）

農林建設課長。

○農林建設課長（古賀九州男君）

お答えいたします。

お隣の単価についてはちょっと差し控えさせていただきますけれども、もちろん機種にも
よると思えます。やはり馬力とか傾斜とか、あと、それぞれのメーカーの売りにもなるんで
しょうけれども、例えば、10アール当たりを何時間で刈れるかというのは結構仕様書ごと
に書いてございます。江北町で入れられている分については、1時間当たり13アールを刈るこ

とができるということで、今現在、各地域で生産組合のほうでため池の草刈りをされているところからすると、時間的にはかなり短くなるのではないかというふうに、あと、お伺いしているところからすると、費用面も大分安く抑えられるような形になるのではないかと思います。やはり機械で刈りますので、どのような機種を入れたにしても、例えば、階段等の構造物の付近であったり、角の隅切りになっているような部分については全てを草刈り機で対応することは無理だろうということでお話を伺っておりますので、そこは地元管理者とのすみ分けを図りながらやっていただくことになろうかと思っております。

現在お答えできる部分については以上でございます。

○議長（諸石重信君）

三根議員。

○2番（三根和之君）

ありがとうございました。

申し訳ないんですが、最後にあと1点。運用の方法として、ある企業に委託した場合に、運転者の資格というのは免許が要るんですかね。そういうのを取った人しか運用されないというのは江北町の場合はあったんですか。そこら辺の調査はされたんですかね。専任者は許可を持った人しか運用できないということになるんですかね。そこをちょっとお聞かせ願いたいと思います。

○議長（諸石重信君）

農林建設課長。

○農林建設課長（古賀九州男君）

お隣の町につきましては、建設業者のほうに委託をされております。ラジコンの草刈り機でございますので、もちろんメーカー等の講習等は必要だとは思いますが。六角川とかの除草に使われているような乗用のタイプでしたら小型特殊とかというのが恐らく必要になるのかなと思っておりますけれども、ラジコン草刈り機については、そこはちょっと申し訳ありませんが、機種によっても、もしかしたら馬力とか規格によっても違う部分があるかもしれませんので、機種を選定する際にメーカーに確認させていただいて、対応可能なものについて導入をさせていただきたいと思っております。

○議長（諸石重信君）

三根議員。

○2番（三根和之君）

ありがとうございました。

1項目めのラジコン草刈り機については先ほども答弁ありましたように、来年度の当初予算で一生懸命計上し、皆さんが喜ぶ姿が浮かんでおりますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

2項目めの横水路のお話です。

先ほども答弁あったように、確かに地元負担もあろうかと思えます。実は、昨日私も行って来たんですが、中島から下瀉に行く横水路の話の現状では、やっぱり狭いもんで、縦水路と横水路、あそこはサイホンになっていまして、流木てる、それから雑草が周辺にちょっとあったもんで、除去しました。先ほども答弁の中にあつたんですが、かなり水量が多いんですね。確かに、今度現場樋管に0.3トンのポンプを建てる予算が上がっておりますが、これを实际的に操業してみて、状況が分散していくのか、それもちょっとあれですけど、六田川の水量も結構多いですもんね。昨日の段階でも多かった。そいけんが、ポンプ車を2台もつけるということもあつたんですが、やっぱりそこら辺の水量も含めて、今後の改良、改善をお願いしていきたいと思えます。

それで、一つ感じたのは、線状降水帯で急遽水量が多くなるということであれば、移動式ポンプであつた場合については、やっぱり移動させる時間帯もここは出てくるですたいね。そいけんが、今ポンプは六角川の堤塘の上に2台設置をされていましたが、常時置けるような移動式ポンプの設置箇所というか、そういうのも検討されれば本当にいいなと。そうしたときには、移動する時間帯も少なくなるかなということでも私なりに感じたところです。そして、敏速にポンプの稼働ができるんじゃないかなということも感じましたので、ちょっと一つ付け加えておきたいと思っております。

先ほど杉谷川については課長の答弁にあつたとおりに、確かに災害復旧でされた経過があるんですね。何せあそこが高いもんでね。そいけん、これもやっぱり早めに対応せんと、崩れてしまつて、また災害復旧しなければいけないという事態が発生すると思えますので、年次計画をつくつて、担当課として町のほうに提案をするということもどうかと思うんですが、課長の答弁をよろしくお願ひします。

○議長（諸石重信君）

農林建設課長。

○農林建設課長（古賀九州男君）

先ほど申したように、基盤整備事業や、ほかのしゅんせつに対応する土地改良適正化事業等についても、現時点ではどうしても地元負担が発生をしてしまいますので、ちょっと年次計画等ですね、事業採択に向けた協議をするにおいても地元との協議、土地改良区との協議というのが最優先になろうかと思えます。まずは、御相談があれば協議をさせていただきたいと先ほど申し上げましたので、土地改良区から相談があった場合については協議をさせていただきたいと思っております。

○議長（諸石重信君）

三根議員。

○2番（三根和之君）

土地改良区の中でも議論しながら進めさせていただきたいということをつけ加えたいと思います。

最後に3項目め、再度ちょっと質問させていただきますが、確かに監視カメラはついていました。それで県の番号がありました。県が管理する場合は、こういうふうに番号をつけて——ポンプであるということになっておりますが、あそこの現場に行ったときに作業員がおられたんですが、実は当初、瞬時にかからなかったと。何でですかと聞いたところ、ケーブルが下にあって最初稼働しませんでしたので、ここら辺、ケーブルの管理の方法も県のほうにちょっとお話をさせていただければというようなこともありました。そこら辺を含めて——あそこも大きいポンプが据わっとるんですよ。そして、稼働する操作盤が2基ありますが、電源のところですので、やっぱりケーブルの接続がスムーズにいかないというようなこともありますので、ここら辺も要望として県のほうにお願いをしていきたいということもちょっと提案させていただきますので、担当課として、県との協議のときにお話をしとってください。よろしく申し上げます。

八ツ江樋管については従前から、さっきも私がお話ししたとおりに、大町町だけの問題じゃなくて、下大町、それから畑ケ田、上大町、そして隣の町の大西というふうなところまで影響しますので、一日も早い改修を要望していただければと思います。

私も町長に質問をした経過がありますので、最後、町長の八ツ江樋管に対する考え方をお尋ねしていきたいと思えます。

○議長（諸石重信君）

水川町長。

○町長（水川一哉君）

昨日も大雨が心配されまして、町でも内水対策に取り組んだところでございます。この御質問もやっぱり内水対策にも影響する、関わってくるのかなというふうに思います。

三根議員も御存じのとおり、大雨が降れば、大町のほうから隣町の江北町のほうに影響があるということは存じておりますし、そのために江北町と共に県のほうに要望書を提出した、これはたしか三根議員も一緒にお願ひに行った経緯があるのかなというふうに記憶をしております。県のほうでは協議はしているということで、なかなか決定までまだいっておりませんが、協議されているということは後日そういう回答が来るのかなというふうに思いますし、今、担当のほうであそこのしゅんせつについて県と話をしております、まずはそれをぜひ進めていきたいというふうに思っております。

そして、この六角川自体が上流から下流に流れてくる、もちろん大町町も武雄市のほうから流れてくるということもあって、内水対策については沿川市町みんなで一緒になって進めていかなければならないと思っておりますので、その一つの取組として、高良川の件も積極的に強力に進めていきたいというふうに思っております。

○議長（諸石重信君）

三根議員。

○2番（三根和之君）

町長の強い意思をお聞かせいただいて本当にほっとしております。やはり大町町民が安全・安心に生活できる環境づくりというのは必要ではないかと思っております。

最後に、私も今後、元年、3年の水害にならないような体制づくり、それから、避難所の確保を十分町のほうで頑張ってくださいことを念願し、私の今回の一般質問を終わりたいと思います。本日はどうもお疲れさまでした。ありがとうございます。

○議長（諸石重信君）

以上で本日の日程は終了いたしました。よって、本日の会議はこれにて延会いたします。議事進行についての御協力、誠にありがとうございました。

午前11時3分 延会